

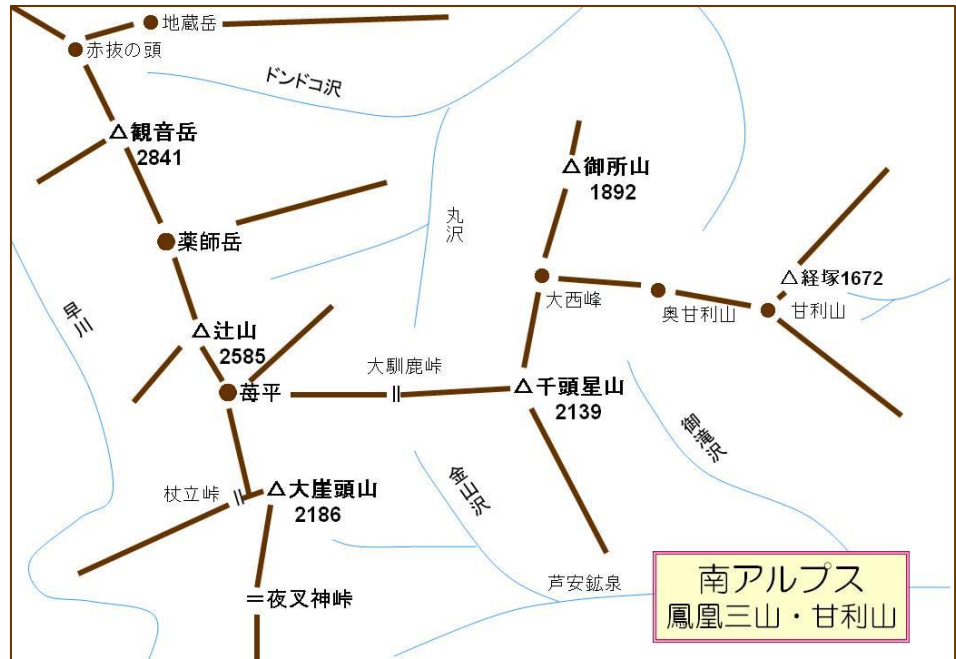
踏 み 跡 < My mountains >

南アルプス前衛	葦崎から甘利山	No.057
---------	---------	--------

国立に転居してからしばらく雲取山をテーマにした登山が続いていたが、雲取山での四日間は雪山慣れするにはよい経験になった。給料日も過ぎたことだし、南アルプス前衛の山にも興味があるので、久しぶりに中央本線で遠出をしてみることにした。前回に引き続き同行は吉野。

昭和41年2月5日
 新宿発23時45分。夜行列車での出発は久しぶりになった。

昭和41年2月6日
 甲斐路の朝景色は去年11月の奥秩父以来だろうか。葦崎着4時。駅で朝食をとり4時半に出発。信州往還を南へ、船山橋で釜無川を渡り、若尾の



集落を抜けて岩淵街道を横切り、甘利沢へ。歩けども歩けども道は細くはならない。車の通れるような道の連続で、闘志が沸いてこない。凍結した椹池(1236m)を横に見てさらに広い道を進むと、やがて平坦で広いところに飛び出した。広河原(1653m)9時30分。

ハケ岳が、奥秩父も、そしてその間に「偽ハツ」のニックネームを持つ金ケ岳と茅ケ岳、みんな白い頭をして、足元は雪の原。昼食と大休止の後10時25分に出発。

<右画像：広河原にて>

甘利山山頂(1740m)まで行き、雪の中で遊びながら景色を楽しんだ。御所山と青岩、千頭星山が近いのでかなり大きく見える。素晴らしいのは、枯れた唐松林の色と足元の雪野原。それ以外は期待はずれな山だった。



11時30分山頂を出発。椹池(白鳳山荘)12時15分、再び景色を楽しむ中休止。

帰り道は退屈しのぎに雪解けでできた氷壁を登ったり、氷を割って遊んだり、近道を捜し歩いたり、遊びながら下り、葦崎駅に戻った。結局、甘利山の頂上直下まで自動車道路が通っており、山へ登ったという実感は乏しかった。千頭星山あたりまで行けばもっと良いところがあったのかもしれない少々金が勿体無いような、感激の少ない山旅だった。

以上

(修正・更新:2023年11月)